

## 第12回 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録

日 時 平成29年3月10日(金) 10時00分～11時20分  
場 所 東京工業大学すずかけ台キャンパス 大学会館2階 集会室1  
出 席 者 和田雄二、穉田宗隆、中島 章、広崎尚登、高田雅介、川合眞紀、西山 功、  
鈴木紀雄、木村茂行 の各委員  
所内出席者 若井史博(フロンティア材料研究所 所長)  
神谷利夫(フロンティア材料研究所 副所長)  
東 正樹(フロンティア材料研究所 教授)  
川路 均(フロンティア材料研究所 教授)  
原 亨和(フロンティア材料研究所 教授)

### 配付資料

- 別紙1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 別紙2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
- 別紙3. 第11回東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録(案)

### 資 料

- 1-1. 平成28年度教員人事異動一覧
- 1-2. フロンティア材料研究所教員組織(平成29年3月1日現在)
- 2-1. 平成27年度決算額について
- 2-2. 平成28年度予算配分表(運営費交付金)
- 2-3. 外部資金受入状況について(平成24年度～平成28年度)
- 3-1. 共同利用研究(平成22年度～平成28年度)実績データ
- 3-2. 平成29年度共同利用研究応募状況一覧
- 3-3. 平成29年度概算要求事項の概要「先端無機材料共同研究拠点の機能強化」
- 4-1. 本研究所における研究論文などの研究業績データ
- 4-2. セミナー・シンポジウム等開催状況
- 4-3. 平成28年度学術講演講師一覧
- 4-4. フロンティア材料研究所受賞者一覧
- 4-5. 2016年度パブリシティー
- 4-6. 研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移
- 4-7. 特許出願・登録状況一覧
- 5-1. 6大学連携プロジェクトニュース
- 5-2. 平成29年度概算要求事項の概要「学際・国際的高度人材育成ライフイノベーション  
マテリアル創製共同研究プロジェクト

### 席上配布資料

- 科学技術創成研究院2016パンフレット
- フロンティア材料研究所2016パンフレット
- フロンティア材料研究所 News Letter No.1
- フロンティア材料研究所 News Letter No.2
- 6大学研究所連携 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究  
プロジェクト 平成28年度活動報告

## 定足数の確認

運営委員総数13名、公務欠席4名、定足基準数9名、定足数5名、出席者9名で成立

## 委員自己紹介

会議に先立ち、各委員から自己紹介があった。

## 議事要録の確認

議長から、前回議事要録（案）について説明があり、これを承認した。

## 議 題

### 1. 研究組織の改組について

若井所長から、科学技術創成研究院のパンフレットに基づき、平成28年4月の改組により発足した科学技術創成研究院の組織構成の説明があり、大きな変更点として、研究所の立場が変わって部局ではなくなり、部局となる科学技術創成研究院に所属することになった旨の説明があった。引き続き、旧建築材料研究所の発足から、共同利用・共同研究拠点として認定され、現在のフロンティア材料研究所に改組されるまでの沿革について説明があり、改組により旧応用セラミックス研究所の建築系と旧精密工学研究所の金属系の教員が異動したが、共同利用・共同研究拠点としては引き続き建築系の教員と共同研究を行う体制である旨の説明があった。さらに科学技術創成研究院が発足したことにより、研究所として大きな影響を受けた事項として、まず、運営費交付金の予算配分がこれまでの定員ベースから現員ベースに変更になり、研究院で30%の共通経費を差し引いた70%が研究所の配分となったこと、意思決定機関がこれまでの研究所教授会から科学技術創成研究院の運営会議・代議員会になり、研究所教授会は教員会議として研究所内の合意を行ったものを研究院の代議員会に付議する流れになったこと等について概要説明があった。これに対し、これまで本運営委員会は部局である研究所が拠点となっていたことからアドバイスをしてきたが、組織が変わったことにより立場が複雑になったので、東工大として本運営委員会の位置づけを整理した方が良いとの意見が出された。

### 2. 教員人事・教員組織について

若井所長から、資料1-1に基づき、平成28年4月からの教員の異動及び今後の異動予定について説明があった。さらに資料1-2に基づき、平成29年3月1日現在のフロンティア材料研究所の教員組織について説明があった後、教員人事の時期・方法などに変更があるのか質問があり、若井所長から、定員の概念がなくなったため、定年で退職した教員がいてもその後任を採用できる訳ではなく、その都度、必要な理由を付して人事委員会に教員選考の許可を得る必要がある旨、説明があった。

### 3. 平成27年度決算額及び平成28年度予算について

#### 1) 平成27年度決算額について

若井所長から、資料2-1に基づき、平成27年度決算額について、平成26年度と比較して差が大きい事項について概要説明があった。

#### 2) 平成28年度予算配分表（運営費交付金）

若井所長から、平成28年度の運営費交付金の配分内訳について説明があり、教育研究費が大幅に削減され、教員あたり経費もこれに伴い減少したこと、外国人客員経費は科

学技術創成研究院内に発足した海外の著名な研究者を招へいして共同研究を行うWRHIに配分されるため研究所への配分がなくなったこと、全体的に配分額が削減されたことへの対応として共通経費・所長裁量経費を削減したことなどについて説明があった。

### 3) 外部資金受入状況について

若井所長から、資料2-3に基づき、平成24年度から平成28年度までの外部資金受入状況の推移について説明があった後、外部資金の獲得にあたっては構成員がまんべんなく獲得しているのかという質問があり、若井所長から、獲得金額は平均的ではなく、特定の教員の貢献が大きい旨、説明があった。

### 4. 共同利用研究について

原教授から、資料3-1に基づき、平成22年度から平成28年度までの共同利用研究の採択数等の推移について説明があり、平成28年度において採択数が減少した要因について説明があった。引き続き、資料3-2に基づき、平成29年度の応募状況の説明があり、採択数を昨年より増やした旨の説明があった。また、資料3-3に基づき、平成29年度の概算要求の概要について、運営費交付金所要額は要求と同額の内示があった旨、説明があった。

これに対し、採択1件あたりの予算配分額は同額にしているのかという質問があり、原教授から、費目別にランクを付けて配分している旨、説明があった。

### 5. 平成28年度の研究所活動状況について

若井所長から、資料4-1~4-7に基づき、研究所の平成28年度の活動報告として、研究論文のデータ、セミナー・ワークショップ等の開催状況、各種受賞者、研究成果がメディアに取り上げられた件数、特許の出願・登録数等について説明があった後、セミナーやワークショップの開催にあたって参加費の徴収の有無等について質疑応答があり、その他、東工大ではどのような実績が評価されるのか等について質問があり、若井所長から、東工大全体では発表論文数が減少しているが、数より質を高める方が重要と考えており、大学としては国際共著論文を増やすことが推奨されている旨、説明があった。

### 6. 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト活動報告について

神谷教授から、資料5-1~5-2及び平成28年度活動報告書に基づき、6大学連携プロジェクトが始まった経緯及び拠点の組織・各分野の概要説明があり、平成28年度からの変更点としては、改組に伴い、本研究所に新たに加わった金属系の教員にも参加をしてもらったこと、また、今後も新任の教員を順次加えていく方針である旨説明があり、平成29年度の概算要求においては、運営費交付金の内示が要求額とほぼ横ばいである旨の説明の後、本件については、大学全体で要求しているのかという質問があり、神谷教授から、個別の要求であるが、大学内の研究戦略室において順位付をして文部科学省に要求している旨の説明があった。

○議題を全て終了した後、木村議長から、本日の運営委員会において説明があった事項について後日お気づきの点、もしくは質問等があった場合は、若井所長へご連絡いただきたいとの発言があった。

以 上